巻頭言　副編集長就任にあたって

ノイズとシグナル

福地健太郎 | 明治大学

このたび，五十嵐先生からお声がけをいただき，本誌の副編集長を務めることとなりました．これまでにも編集委員として何度か特集の企画立案や編集に携わってきましたが，これからはさらに積極的に企画にかかわることになります．これからもよろしくお願いいたします．

さて，これまでに私が立案にかかわった本誌特集を並べてみますと，

- 「進化し続けるコンピュータ将棋」Vol.59，No.2 (2018)
- 「医療と情報：第 2 部　身体情報を医療と結びつける情報学」Vol.60，No.4 (2019)
- 「『AI の遺電子』に学ぶ未来構想術」Vol.61，No.1 (2019)

といったもので，このラインナップから私の専門を言い当てるのは難しそうです．また，本誌以外ではかつてバーチャルリアリティ学会誌で「VR メディア評論」という，VR に関係しそうな小説・漫画等の評論をするという連載を持っていましたが，そこでもいっけん VR と関係ない現代劇や落語を取り上げたりして，面白そうと思えるものはなんでも題材にしていましたし，「ニコニコ学会 β」という多種多様な研究者の集まった学会では学会誌『月刊ニコニコ学会 β』の編集長を務めていて，これまた雑多な誌面づくりに貢献していました．

その『月刊ニコニコ学会 β』の創刊準備号[1]では，『月刊アスキー』の編集長を務めた，角川アスキー総合研究所の遠藤諭さんを招いての鼎談記事を掲載したのですが，そこで遠藤さんは何度も「ノイズ」の重要性を強調し，視野の狭窄化・思考の硬直化を防ぐノイズ源としての雑誌の役割を指摘しています．私自身もまた雑誌の楽しさに触れながら育ったもので，誌面の片隅に埋め草のように掲載されていた記事を覚えていたことが後年の研究につながったりすることがままあり，多様な情報に触れる機会を与えてくれた雑誌には感謝の気持ちしかありません．

しかしながら，ノイズのポジティブな側面にばかり目を向けるわけにはいきません．フェイクニュースやプロパガンダの跳梁から目を背け，重要な情報がノイズの海に埋没していくのを許すことが世界の調和にどれほどの影響を及ぼすか，その議論に私たちは真剣に向き合わねばならない状況を迎えています．社会には伝えるべきシグナルがあり，ノイズからそれを分けるのもメディアの責務であるのはいうまでもありません．

責任ある学会誌の編集を担うものとして，あらためて「情報」の意味を問い，社会に訴えかける誌面づくりに取り組みたいと思います．

参考文献

1) ニコニコ学会 β 実行委員会編『総力特集　ニコニコ学会 β の野望って何ですか？　月刊ニコニコ学会 β 創刊準備号』ブックウォーカー（2013）．

（2022 年 3 月 7 日）

■福地健太郎（正会員）　kentaro@fukuchi.org

2004 年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士後期課程単位取得退学．博士（理学）．（独）科学技術振興機構 ERATO 五十嵐プロジェクト研究員，明治大学理工学部特任准教授，同総合数理学部准教授を経て，2018 年より現職．ユーザインタフェースや知覚心理学，エンタテインメント応用に興味を持つ．2002 年 FIT 船井ベストペーパー賞，2010 年日本 VR 学会 論文賞，2019 年羽倉賞奨励賞，2020 年 Innovative Technologies 2020 Special Prize -Wonders- を受賞．